

平成22年度決算報告

一般会計の実質収支は1億4千万円余の黒字決算

平成22年度会計決算が9月定例会で認定されました。一般会計決算額は、歳入が110億8,278万1千円で、歳出が107億7,182万8千円で、差し引き3億1,095万3千円でした。このうち、翌年度への繰越財源分1億6,849万8千円を控除した、実質収支は1億4,245万5千円の黒字決算となりました。

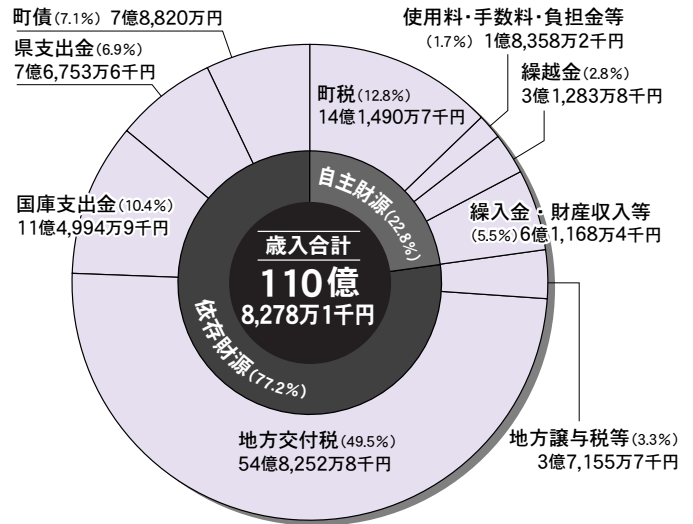
歳入は、地方交付税の増額などがありましたが、国の定額給付金事業や臨時交付金事業及び県の合併市町村特例交付金の終了など、国県支出金の大幅な減額により、前年度より約2億8千万円、2.5%減少しました。

一方、歳出は、行財政改革により人件費や、公債費などの義務的経費が減額となったほか、琴丘中学校耐震改修事業や公営住宅建設事業などの投資的事業の終了により、前年度より約2億7,800万円、2.5%減少となりました。

●平成22年度一般会計決算

歳入

歳入名称	決算額	構成比(%)
町税	14億1,490万7千円	12.8
使用料・手数料・負担金等	1億8,358万2千円	1.7
繰越金	3億1,283万8千円	2.8
繰入金・財産収入等	6億1,168万4千円	5.5
地方譲与税等	3億7,155万7千円	3.3
地方交付税	54億8,252万8千円	49.5
国庫支出金	11億4,994万9千円	10.4
県支出金	7億6,753万6千円	6.9
町債	7億8,820万円	7.1
歳入合計	110億8,278万1千円	100.0



○自主財源 (22.8%)

町が自主的に収入できる財源のことで、町税、使用料・手数料、分担金・負担金、繰越金などがあります。この割合が高いほど財政が安定し、自主的な事業をより多く行うことができます。

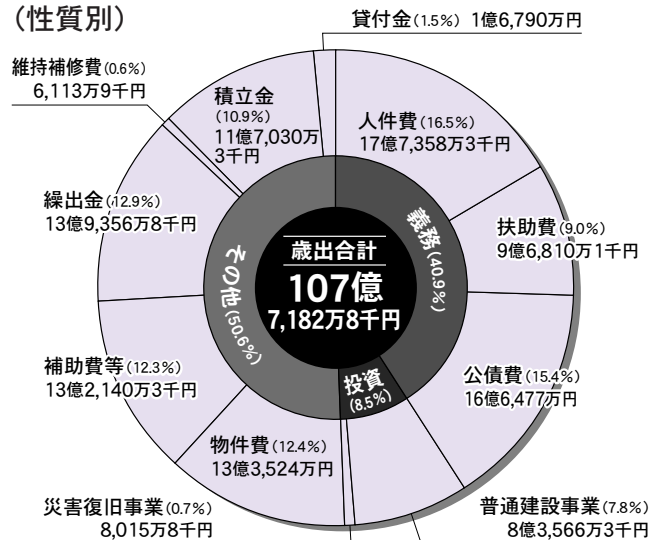
○依存財源 (77.2%)

国や県から交付されたり、割り当てられたりする財源のことで、地方交付税、国庫支出金、県支出金、町債などがあります。

歳出 (目的別)

歳出目的名称	決算額	構成比(%)
総務費	14億4,417万7千円	13.0
民生費	24億5,732万1千円	22.8
衛生費	7億5,096万7千円	7.0
農林水産業費	6億5,566万6千円	5.6
商工費	3億2,998万7千円	3.1
土木費	8億6,448万9千円	8.0
消防費	5億3,012万8千円	4.9
教育費	6億3,050万1千円	5.9
公債費	16億5,850万5千円	15.4
諸支出金	11億7,030万5千円	10.9
議会費・労働費等	3億6,954万2千円	3.4
歳出合計	107億7,182万8千円	100.0

(性質別)



●歳出性質の説明

○義務的経費 (40.9%)

人件費、扶助費、公債費など必ず必要となるお金のことで、この割合が低いほど行政サービスなどに多くのお金を使えます。人件費とは、職員の給料や議員の報酬などにかかるお金のことです。扶助費とは、子どもや高齢者、障がい者などの生活支援にかかるお金のことです。公債費とは、町の借金の返済にかかるお金のことです。